

三次元形状にも対応する 精緻なプレス加工技術

植田工業株式会社

大阪
21

ISO 9001

ISO 14001

<http://www.uedaindustry.co.jp/>

研究開発室

Company Profile

植田工業株式会社

住 所／〒573-0128

枚方市津田山手2-2-20

創 業／昭和34年

設 立／昭和48年7月

資本金／4,000万円

従業員／83名

T E L／072-808-3800

F A X／072-808-3801

■主な事業内容

各種金属加工、金型設計・製作

■主な取引先

自転車部品製造会社、電気機器製造会社、自動車部品製造会社 等



当社のセールスポイント

シビアな製品に挑み
当社ならではの技術力を
構築していきます。



代表取締役社長
植田 守さん

当社では、技術者の育成強化と生産設備の充実を図る一方で、徹底したデータ管理に基づく品質の安定化にも力を注ぎます。世界を照準にした厳しい競争に打ち勝つには、単純なプレス加工では生き残れません。シビアな製品ほど当社のメリットにつながると考え、試作段階からお客様と一体になって妥協のないものづくりに取り組んでいきます。



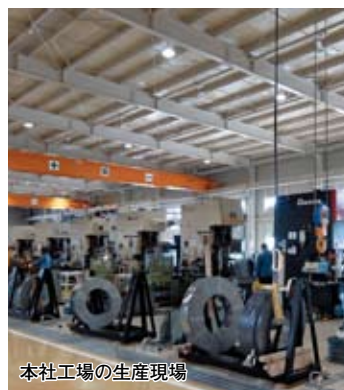
他の追従を許さない 16年目のロングセラーも

植田工業は、昭和34年に電気機器の組立工場として創業し、ほどなく福井県内に工場を新設。順送プレス加工をメインとしたサブライヤーへと発展していった。現在は、主に自転車、通信機器、自動車、住宅など幅広い分野に製品を供給。本社工場は、技術力に優れたものづくり企業が集まる枚方市の津田サイエンスヒルズにあり、築2年とまだ新しい。植田社長によると、「町工場から企業への脱却を図り、次世代につながる確かな企業基盤を築くためにここへ移転してきた。社屋の広さは移転前の10倍に拡張、従業員数も倍に増員しての新たなスタートだった」と言う。

金型からプレス加工まで 一貫体制で信頼を得る

プレス加工業界では、金型を内製する企業はあまり多くないが、同社は事業に参入した当初から開発力こそ企業の優位性だと考え、金型の設計・製作に重点を置いてきた。「他社に作れない金型も当社なら作れます。これは植田にしかできない、とお客様から指名され、図面が来るのですから信頼に込める責任もあります」。

16年前、世界トップクラスの自転車部品メーカーの依頼で、内装変速機に用いるスリーブという高精度部品について6社が競合。その中で、高い精度と品質安定性を訴求した同社の案に軍配が上がり、採用が決まった。現在も主にヨーロッパ方面へ出荷される七段・八段変速器用スリーブについては、月産10万〜15万本ペースで供給。他社には真似のできないオンリーワン製品として高く評価されている。



本社工場の生産現場

技術面での取り組みとしては、鍛造と順送を複合した（超鍛造順送）という製法に挑戦。鍛造でしかできない製品を品質は落とさずに順送プレスで製作できれば、コストが抑えられ新たな事業展開も期待できる。本社工場新設の際は、「新商品鍛造順送プレス品の開発」をテーマとした経営革新計画が大阪府知事に承認され、様々な支援が得られた。「当社は、こんなものでもきますと提案することで多くの方に認めていただき、信頼を築いてきました。これからも積極性と柔軟性をもって、新しい分野にチャレンジしていきたいです」。